

令和3年度 第5回 国立大学法人北海道大学総長選考会議議事要旨

日 時 令和4年3月18日（金）13：00～14：15

場 所 北海道大学事務局 中会議室B

出席者 10名

（学外） 石山、浅香、長澤、松谷、横山 各委員

（学内） 小名木、畠山、瀬戸口、西邑、福井 各委員

オブザーバー

山口理事、吉見理事、増田理事、村田理事、高橋監事、石川監事

配付資料：

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 1 | 次期総長選考へ向けた検討課題（案） |
| 2-1 | 「総長の業務執行状況の確認及び業績評価について」改正（案）概要 |
| 2-2 | 「総長の業務執行状況の確認及び業績評価について」改正（案） |
| 2-3 | 「総長の業務執行状況の確認及び業績評価について」改正（案）溶込 |
| 3 | 令和4年度に実施する業務執行状況の確認スケジュール（案） |

議 事

議事に先立ち、事務局から、令和4年1月18日に開催された令和3年度第4回総長選考会議の議事要旨について確認があった。

【 議 題 】

1 次期総長選考へ向けた検討課題について

事務局から、資料1に基づき説明があった後、審議の結果、以下のとおり意見があり、資料と併せて次期総長選考へ向けた申し送り事項とすることが了承された。

（主な意見）

【全般】

- ・資料にある検討課題も含め、次期総長選考においてはその時点で会議が最も適切だと考える選考方法を、十分に時間をかけ議論を尽くして決定すべきである。

【推薦方法】

- ・実際に推薦があるかどうかは別にして、広く候補者を集めるという観点からは、推薦方法を複数用意し多様化することは良いことである。
- ・教育研究評議会による推薦について、前回の選考では教育研究評議会の了承を得られなかったが、十分な時間をかけて説明すれば理解が得られるのではないか。
- ・選考会議委員による推薦は、候補者が出ない場合等におけるリスクヘッジになり得ること、また、推薦から予定者の決定までの間に意向聴取によってワ

ンクッションが挟まることも踏まえると方法の一つとして維持することは適切である。

【意向聴取】

- ・若手教員が大学の運営を考えることにつながるため、意向聴取対象者に助教を含める点について検討する必要がある。
- ・対象者を広げるのであれば、事務職員とのバランスも考慮の余地がある。
- ・候補者が1名の場合も意向聴取をした方がよいという考え方もある。

【多面的評価】

- ・推薦要件として提出させるよりも、業務執行状況の確認等で活用することで効果が期待される。

【予定者の決定】

- ・合議を重ねても決まらず、投票で得票同数となった場合、単に年長者というだけで総長予定者とすることには違和感がある。あくまでも合議が原則である。
- ・合議が原則ではあるが、議論を尽くしてもなお合意に至らないことも想定される以上、最終的な決定方法については何らかの形で予め定めておく必要がある。

2 総長の業務執行状況の確認及び業績評価について

事務局から、資料2-1～資料2-3に基づき説明があった後、審議の結果、資料のとおり「総長の業務執行状況の確認及び業績評価について」を一部改正することが了承された。

3 令和4年度に実施する総長の業務執行状況の確認スケジュールについて

事務局から、資料3に基づき説明があった後、審議の結果、資料のとおり令和4年度に実施する業務執行状況の確認スケジュールを確定することが了承された。

(以 上)